

2009年3月30日発行

ぱ ん す

四季の会・ユーザーズ・サービス

256号

発行人 浅沼 邦夫

拝啓 春暖の候、先生におかれましては益々御活躍のことと存じます。

日本連覇、野球の第2回WBCの決勝で、韓国を破り、2連覇を達成した。侍ジャパン、苦悩の天才を支えた仲間、イチロー締めた、世界抑えた、最高の決勝戦、拍手です。良いムードも少しは出て来たようです。3/26の日経、「**着実に前進の気配**」が出て来たとの事。麻生内閣が掲げた事業規模で総額75兆円の景気対策が現実化することになった。更に3/28日経、政府の成長戦略原案が、最大200万人の雇用創出、3年間で集中投資60兆円の需要創造へと、着実に前進することになるようだ。

3/25 読売には、**米景気「進展の兆候**」オバマ大統領会見。対策の効果が表れ始めたとの見解を示した。住宅市場で「販売の増加や価格の安定の兆しがみられる」と指摘し、「時間はかかるが我々は景気後退から立ち直る」と宣言した。最近のニュースなどで、**中国の温家宝首相は2/1付の英フィナンシャルタイムズ紙に「工業生産は底打ち、反転している」と述べた。**

3/18のある経営セミナーで、中国人エコノミストの尚敏捷氏が、中国政府の経済指標と現場の生情報を組み合わせた中で、「楽観的」に今年の後半に中国は良くなる。決して悲観することはない。中国は日本の政治と違い、共産党一党で政治が安定し、情報、決断が早いのです。リスクは山程あるが解決の手段がある。努力する。一喜一憂することなく、ブレない方針実行なのだと言っていました。

私たちも、これからは時流を知る。関心を持つ。一つの流れを知ること大事かと思うのです。私は良い情報一つでも探し、所長先生の力になればと思っております。

失敗には未来がある すべての答は自分の内にある

「失敗の中には未来がある」と言われる。

久しぶりに、八起会会長の野口誠一氏の研修に参加しました。80歳近くになり、仏様のような、穏やかな方でした。

彼は若かりし時会社を潰しているのです。その原因は何か！結論はすべて「私の甘さ」である。「自分に対する甘さ、社長としての自覚が足りなかったというところにある」と思い、「八起会」を作り、多くの中小企業の再起に力を入れているのです。潰れるにはそれぞれの背景や原因がある。

会社はなぜ潰れていくのか！その原因は何か！「今の状況は決して、すべて社長自身の問題があるとはいえない！」アメリカのリーマンブラザーズが潰れるとは思っていなかった。AIG・GMがおかしくなった。トヨタや日立が大赤字になるうとは予想もつかなかった。「100年に一度の危機」といわれる時、まじめな中小零細の経営者は、我が社の状況をみて、時代の変化への対応を真剣に行っていたのに「まさか」「まさか」の連続だったと思うのです。

野口氏は、**経営者の目的は会社を潰さないことである。成功は過去のこと、失敗は未来のことである。失敗には未来がある。心が変われば自分が変わり、未来があると心に訴えていました。**野口氏は失敗の原因は、「時勢が悪い・政治が悪いなどではなく、自分自身のなかにある」と、研修の中で熱い厳しく語っていました。信者のような多くの経営者が学んで来られているのです。「野口倒産学」？が、確立されているということでした。「**すべての答は自分の内**」にあると、**船井総研の船井幸雄氏はこんなことを書かれています。**

難問に直面したとき、私たちは、自分の外の誰かに頼って、その答を見出そうとします。過去の実績を検証するには、どれも正しい方法であり、判断の材料にはなりません。しかし**結局、最後の最後で行う決断は、自分の心ひとつにまかされるということになるものです。**

人が難問と思うのは、検証できる事実を超えた不確定要素がたくさん関係していること、過去にも例がないような新しい分野の課題であること、通常の思考では、解答できないと思われる課題です。こうした難問に対する正しい解答は、本来は自分の外ではなく、自分の内側に求めるのが正しいのではないかと、私は考えています。

あらゆる問いに的確に答えることができる力、「直感力」が「良心」をチャンネルに発現する可能性があるのです。良心の奥に、すべてに答えることができる意識がひかえているという説は、正しいと思います。**ならば良心との対話を繰り返し、常に「なぜか」を自分に問いかける習慣づけが大事です。**自分にとっての正解を得るために、主体である自分をよく知り、使命や役割を認識することが重要だからです。自分自身のことがわかってくると、そんな役割を持つ自分が成すべき行動、果たすべき仕事はどうあるべきかが理解できるはずです。

この行動の繰り返し、自分のなかにある真の答えの精度を高めることになるのです。(フナイFAX3月27日号 参照)

価値観こそ大事！

私達一人ひとは、人生を生きている。そのステージ(100年に一度の危機)は余りにも激変している。それは私達一人ひとりの自己に対して与えられている警告かも知れません。自己が環境の激変に対応して自己を変革せざるを得ない時、正に自己革新です。「自己革新が出来るか、出来ないか」その2つに1つが私達に求められている問題です。自分の価値観を、高い価値観に変えていくことが出来るかどうか問われているのです。自分が存在する理由、価値を生み出す力が価値観である。つまり、自分の価値観を進化させることが出来るかどうかということが私達のテーマです。

私達は自分なりに価値観を持って人生を生きている。一人ひとりの価値観の内容はすべて異なる。10人いれば10人とも価値観は異なる。「**価値観**」とは「**思考の物差し**」という意味であり、また「**ものの見方・考え方**」といわれています。寸法を測る物差しが間違っていると、私達は判断ミス・選択ミスをしてしまいます。価値観の間違いから引き起こされる悲劇です。

山登りをするには、「**地図と磁石**」が必要です。その使い方を知っていたら、道に迷った時、**戻り方を知ることができるのです。迷っても戻れなかったら大変です。失敗しても帰れるし、失敗してももとにかえれる。確実に立ち戻れるのは価値観を確信している人です。「思考の物差しは判断基準」と重要な意味になります。**

ゼロに確実に戻れる。失敗してもゼロの地点に立った。ゼロ地点がわかる人。そして、再出発が出来るのです。もとに戻れたことに感謝することのできる人、高い価値観を持っている人です。

今こそ中小零細企業は80%が赤字企業といわれます。私達のお客様の80%が赤字企業なのです。山登って来た峠にさしかかったら、大変な事件が起きた。道に迷ってしまった。戻れないと大変です。少なくとも「**もとの地点**」に帰りたいのです。

計画や目標をたてた！しかし、全く変わってしまった。ゼロ地点に戻りたいのです。ゼロ地点が決算書です。会社のゼロ地点を示すのが「決算診断提案書」なのです。会社のバランスが大切です。6要素診断です。6要素のエンジン・発動機です。「収益性」「生産性」「資金性」「健全性」「安定性」「成長性」が有機的に結びつき、自分の足をじっくり見つめ、掘り下げていくことが出来、非常に大事なことです。

「決算診断提案書」こそ企業の価値観です。過去と今を分析して、近未来に役に立てることが、経営者に示すべき姿です。この時代こそ未来はまだ来ない、夢と希望も大事です。その前に、現状をよく知ること。経営者の価値観が「**決算診断提案書**」にあるのです。決算診断から事業計画書作成へと発展していくのです。「**決算診断提案書**」は会計事務所の高い価値観であるのです。竹内日祥氏の「**経営人間学講座**」に学び中。